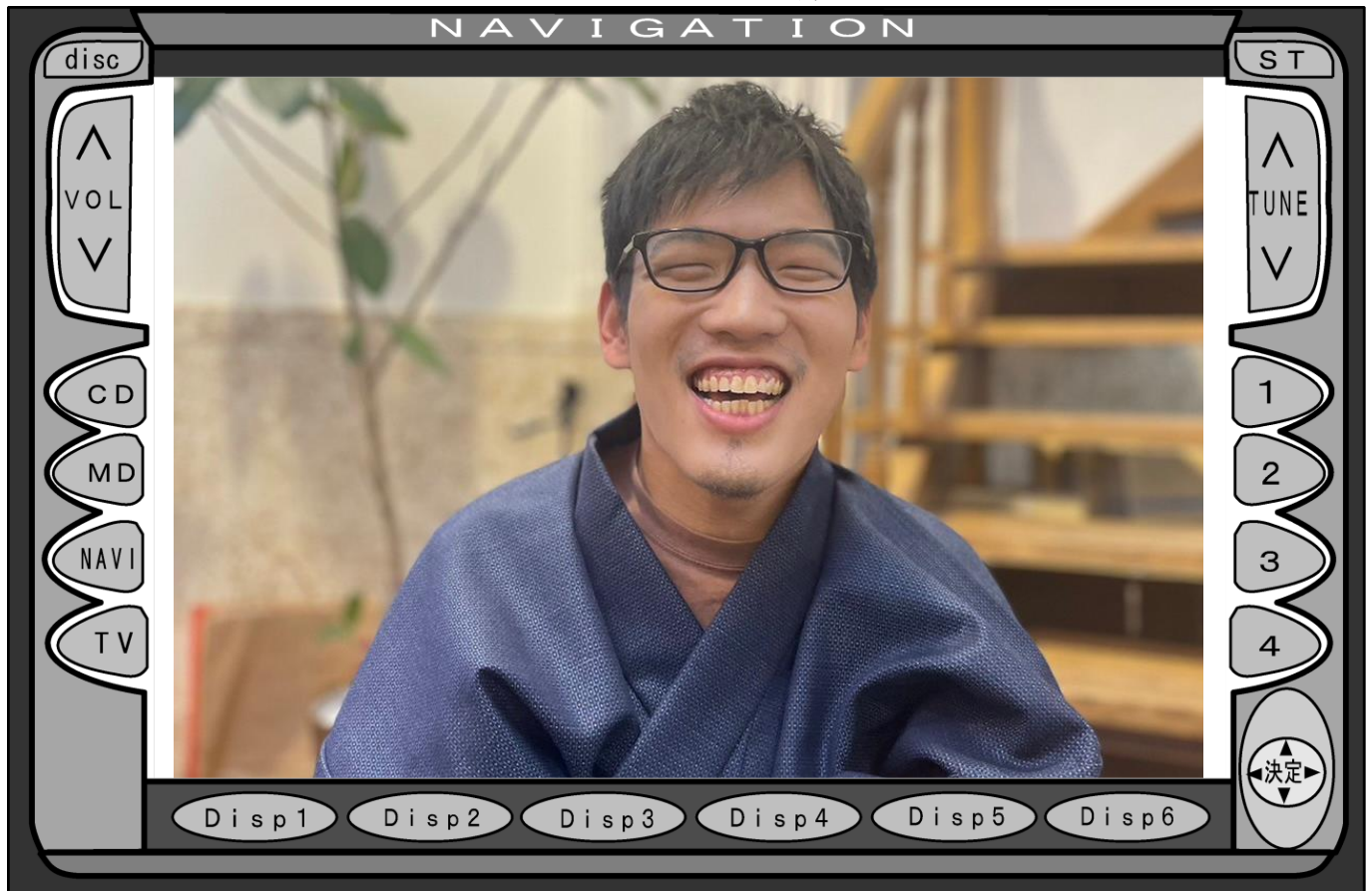


しょうがいしゃ じりつせいかつじょうほう
障害者の自立生活情報ナンバー
No. 72

(2023年3月号)



ナビゲーション

じりつ みちあんない
自立への道案内こんかい きょうりょく せいかつかいご ながた ゆうじ
今回、インタビューに協力していただいた生活介護パイオニアの永田 勇次さん

もくじ

- シリーズ いろんなテーマの「なぜ」を解消! 2
- ～Sevenメッセージ～ 9 ●自立生活夢 宇宙センター スロープ取り組み 12
- ナビゲーション至上初! 学習塾への取材!! 14
- 東住吉区地域自立支援協議会全体会報告 15
- 編集後記 16

シリーズ いろいろなテーマの「なぜ」を解消！

～なぜ、施設は作られ、なくならないのか

なくしていくために必要なことは？～

このコーナーでは教育、施設、交通など各分野に詳しい人にインタビューをしていき、当時の障害者や制度の状況、その制度はどう変わってきたのか？今、取り組んでいること、これからの課題はなにか、など語ってもらうというコーナーです。今回は大阪府泉大津市の生活介護パイオニアで活動されている永田勇次さんに施設に入所していた頃のことや自立生活をしてからのこと、なぜ施設は、なくならないのかをテーマにお話しいただきました。

名前：永田 勇次

年齢：33歳

障害名：脳性麻痺

趣味：だんぢり祭り、まんが、おしゃれ

～君ならエースになれるよ～

山下：今日はよろしくお願いします。今回のいろいろなテーマのなぜを解消では、大阪府泉大津市にある自立生活センター・リアライズが運営している生活介護パイオニアの永田勇次さんにお話をお聞きしたいと思います。よろしくお願いします。永田さんとは、おとし、パイオニアのILP(自立生活プログラム)から関わるようになりましたが、永田さんも僕と同じ岸和田支援学校出身ですよ。

永田：そうですね。

山下：支援学校卒業してからは、どうされ

てたんですか？

永田：大阪市内の施設に、1年間通ってました。そのあとは、大阪府内の施設に通って陶芸をしてました。あんまり長続きしなくて4か月ぐらいで辞めてしまいました。そこから、しばらく家におったけど、親も足も手も痛くなってきて、僕の介護が出来なくなってきて、それで、お父さんもお母さんもない時があるから、大阪府熊取町の施設にショートステイで入ったんです。1週間ぐらいそこで過ごしました。その施設が、新しくグループホームを建てるという話が

あって、ショートステイを契約する時に、話を聞かせてもらって「きみならエースになれるよ。」と言われて、それなら頑張ってみようかなと思いました。

山下：「君ならエースになれるよ。」ってどういうことですか？

永田：コーヒーのコップを自分で持てたんですよ。それを見た施設の人が「君ならエースになれるよ。グループホームにぜひ来てくれへんか。ケーキ屋さんのお仕事もそこで出来るし、1人暮らしみたいなこともできるから」ということで。親も大変になるし、親に介護してもらわなくても生活できるというのがあったし。1人暮らししたかったので、喜びを感じて入ったんです。

～ベッドに上がるのが19時30分！～

山下：実際は、どんな感じでしたか？

永田：ご飯を食べる時間とか、まだ何も決まっていなくて、一番最初に今度入ってくるメンバーということで紹介されたぐらいでした。

山下：永田さん以外には、グループホームに何名入る予定だったんですか？

永田：6名です。熊取町の施設の中から選ばれ6人で、外部からは僕だけでした。説明会の時は、お風呂の時間も決まっていなくて。僕が入所するまでには決まっていたんです。

山下：1日のスケジュールを教えてくださいいいですか？

永田：朝は、職員に順番に、めっち

や早く起こされます。朝ごはんは6時30分に食べてます。夜ごはんは18時から決まっています、30分間でご飯を食べないとダメです。

山下：30分間で食べないといけないというのは、早すぎますね。

永田：僕は、それを知らなかったから、ゆっくり食べてたら「何してんねん！」と怒られたこともありました。自分でご飯を食べて、そこから歯を磨いて、職員さんが19時30分になったら世話人さん以外は誰もいなくなってしまうんです。早い時では18時45分にはベッドに上がられる。それ以上遅かったら「なんで、今日遅いん！」って怒られる。僕が思い描いていた自立生活とは全然違いました。初日、入った時は、まさか、こんな時間にベッドに上げられると思ってなくて、パソコンでDVDを見てたら、18時45分に職員が来て「もうベッド上がるよ」って言われて「まだこんな時間やのに、もう上がるんですか？」と聞いたけど「うちの決まりやから。」と言われました。

山下：18時45分にベッドに入って寝れますか？

永田：テレビは23時までは見てもいいんですよ。それも職員によって違うから泊まった人のさじ加減。その職員が「今日はこの時間に消しに来るからね。もうやることないから。」と21時ぐらいに電気消されることもありました。

山下：18時45分からベッドの上ってトイレ

の時は、どうしてたんですか？

永田：夜中の職員さんは資格を持っていないくて、ヘルパーの資格がないとベッドから降ろしたらあかんっていう決まりがあったみたいで。トイレまで連れて行ったりするのを禁じられてました。

山下：そんなこと言うても、トイレは行きたくありませんよね。

永田：そうですね。突然、おなか痛くなったりした時があって「ごめんなさい。おなか痛いのでトイレ連れていってください。」とナースコール鳴らすんですけど。職員さんがゾロゾロ集まって来て時計を指さすんですよ。「今、何時やと思う？19時30分過ぎてるよね。だから、うちらは仕事終わってるからトイレには連れていかれへん。」と言われて、「じゃ、どうしたらいいんですか？おなか痛いんですけど。」って言うたら差し込み用の便器を持って来られて、「その中にしてって言われて。」そんなこと初めてやから出るわけじゃないですよ。けっこう闘ったけど言うこと聞いてもらえなくて。グループホームではなくて施設みたいな感じでしたね。

山下：聞いてるだけで腹立ってきますね。

～なんばおにごっこが

自立へのきっかけ～

永田：本当に施設でしたね。入居者同士の仲も良くなかったんです。

山下：喧嘩とかもしたんですか？

永田：施設の入所者から僕は選ばれたわけ

ではなくて、初めて会う人ばかりやったから、いじめられたりもしました。他の入所者に「なんでこんなんで出来へんねん。」と言われてたり、「あんただけ仕事遅いから、明日から来なくていいよ。」と言われてたり。だんだん僕だけ仕事に追いつけなくなってきました。

山下：施設には、どれくらい居たんですか？

永田：12年間ぐらいです。ちょうど30歳の時に施設を出ました

山下：施設を出ようと思ったのは、いつごろですか？

永田：30歳より前だったと思います。出るまでに5～6年かかっているの。

山下：施設の人は、自立生活には協力的だったんですか？

永田：施設は、なかなか協力してくれませんでした。リアライズのことを良く思ってなかったの、リアライズのことを悪く言ったり、自立プログラムを始めようとしてもなかなか協力的ではなかったです。

山下：一人暮らしするきっかけなんですか？

永田：リアライズと出会ったのは、おにごっこ（なんばのバリアフリーをしょうがいしゃけんじょうしゃかんけいまちあるたのしさを知ってもらって、バリアフリー状況を体験してもらイベント）それまでリアライズのことを知らなかったんです。自立生活プログラムをはじめたのが、ちょうど2018年。リアライズの辻田さんに計画相談を担当してもらいました。体験室を借り

体験宿泊するまでもいろいろあって、施設は、リアライズのことを良く思ってなかったから、何してくれてんねやみたいな感じでした。僕の部屋に来て「一人暮らししたいと思っているのは、それ誰かの入れ知恵か。」と言われて「僕の気持ちです。」って言うたんやけど。

山下：ひどいことを言われても自分の気持ちを伝えることができたんですね。家族の協力もありましたか？

永田：お母さんに協力してもらったりとか、一人で言うのはさすがに怖かったんで、お母さんに先に電話で伝えてもらって、あとから自分の気持ちを言いました。なんか、12年間施設で生活してて、僕のこの考え方が合ってるのか判断出来へんから親に「これって俺って間違ってるのかな。」って。例えば、トイレに座らせてくれへんねんけど、これって俺って間違ってるのかなとか。相談できるのが親しかいない。まともな意見持っているのはその当時は親しかいなかったんで、親にこれって間違ってるかなあ。って聞いたりもしました。



生活介護パイオニアで活動中の永田さん

～いろんなこと困りました～

山下：永田さんが通われているパイオニアの管理者の山本さんにもお聞きしたいと思います。山本さんには2021年3月号のナビゲーションでも今回と同じ施設をテーマに取材させていただきました。ありがとうございます。山本さんと永田さんの関わりについて教えてもらえますか？

山本：永田さんの地域移行にアプローチした人は介護派遣のコーディネーターが主だったので、僕は生活介護のスタッフだったので、自立生活を進めるところには関わってなくて、永田さんが地域移行をしてきて、これからどうしていくかって考えた時に、選択肢としてパイオニアが出てくるから、その時から深く関わるようになりました。リアライズで合宿を年1回やっていますが、その時に、永田さんが施設で生活している時やったけど、合宿に行きたいということで関わるようになりました。その時が初めて関わった時ですね。合宿の帰る時とか、憂鬱やったよね。

山下：自立生活プログラムは、どんなことしてきましたか？

永田：自立体験室を借りてたんですけど。僕もなんにも知らないんで、電子レンジの使い方もわからなかったし、どうやってご飯作るとか、どうやって米炊くとか、どうやって洗濯機を回すとかも、わからなかった。全部が困りましたね。

山下：それを1つ1つ先輩障害者に教えて

もらいながら経験していったという
ことですか？

永田：ボクは忘れやすいので、なんとか聞き
ながらやってました。介助者使うっ
ていうのも初めてやったし、どこま
で手伝ってもらったらいいのかわか
らなかったし、生活に慣れるのが
大変でした。覚えることもたくさん
あるし。

山下：施設に帰ったら自分でやらなかアカ
ン言われるしね。

永田：そうですね。リアライズでは食事介助
を頼めたけど、施設では食事介助も
してもらってなかったんです。だから、
間違ってしまったって、リアライズ方式を
施設でやった時は「何を口開けて待っ
てんねん。甘えたらあかん。もう自立
するんやから全部自分でしいや。」言
われたこともありました。

山下：施設と自立生活の違いを感じることは
ありますか？

永田：自分の時間を持てるようになりました。
逆に持ちすぎて何しようかなと思
ってます。施設やったら食べる量
が決まっていたので、自分がどれだ
け食べられるんかとか、洗濯を何日
に1回した方が良かったとか、家計簿も付
けてなかったもので、これにいくら
必要でとか知らなかったもので、大変
でしたね。

山下：だんだん慣れていきましたか？

永田：1～2年目までは大変でした。お金に関
しては今もビビってます。急になく
なったらどうしようとか。でも今の
ところなんとかいけてますね。

山下：誰かに助けてもらいながら計算した
りとかしてるんですか？

永田：唯一できるのが足し算や引き算なの
で。どれぐらい使っててどれぐらい
余ってるというのがわからなくなる
ので、それを介助者にしてもらって、
一緒に考えて今はやってますね。
家計簿もずっと付けないとあかんけ
ど。最近、やれてなかったなと思っ
て、また、やり始めてます。



スマホゲームに熱中！

～自分の時間が
持てるようになった～

山下：家計簿をつけるって難しいですね。
自立生活をして一番最初にやったこ
ととかありますか？

永田：飲みに行くことが一番多かったです
ね。

山下：自立して良かったことは？

永田：今も制度の中でやってるから、自由か
どうか言われたらどうなんだろうな
と思う時も時々あるけど、前よりは
自由になったと思います。自分の
時間を持てるようになったのは
一番最高ですね。洗濯は溜ってから

やるタイプでズボラです。

やました 山下：ヘルパーさんを使いながらの生活も慣れてきましたか？

ながた 永田：先輩からみたら甘いとか思われるんかもしれんけど、自分なりには頑張ってるつもりなんですけどね。昔からの性格かもしれんけど、これぐらいやったら我慢できるわ。言いたいことも言えなかったりすることもあるけど頑張ってます。人によって伝え方変えてみたり。自分で考えてやっています。

やました 山下：癖ってなかなか抜けないですよ。これからやってみたいことは、どんなことですか？

ながた 永田：自立生活を始めてすぐに、コロナが流行りだして。外に出たらあかんとか言われて何したらいいのって思っていました。いっぱいしたいことがあるけど。この前に岸和田だんぢり祭にも行けたし。みんなと泊りに行くとかやりたいですね。何も気にせず泊りに行きたいですね。



ちいき かつどう ぴーあーる
地域のイベントで活動の P R

～自立生活ができる仕組みが必要～

やました 山下：本当にコロナが早く収束して、いろんな所に外出出来たり、施設に入所している障害者とも交流ができたらいいですね。今、施設に入っている障害者に伝えていきたいことはありますか？

ながた 永田：僕みたいに出たいと思ってる人がいたら応援したいし、関わっていききたいと思います。僕みたいに変なことを味わってほしくないです。偉そうに言ったらアカンけど、僕は施設を出る気持ちが強かったから出れたけど。施設から出たいと思ってる人がおったら応援したいし手伝いたいけど、自分がアドバイス出来る状態にしておかないとダメですね。

やました 山下：いろんな人に伝えていったり、ロールモデルになるって大切ですよ。最後の質問をさせてください。施設をなくしていくために、どうしていったらと思いますか？

ながた 永田：施設をなくすってことは、リアイズという団体だけではなくて、受け皿がないとダメ。そういうところがいっぱい出来ていかないとダメ。

やました 山下：自立生活センターや日中活動で活動している障害者の役割って大切ですよ。山本さんは、どう思いますか？

やまもと 山本：当たり前前に地域で生活することを選択出来てないことが圧倒的に多いなと思いました。当たり前前に地域で生活している当事者もいてるし、周りの人もそれを知っている、そうい

うものをつくっていくためには、活動している障害者の発信力は大切だと思います。永田さんに聞きたいんですが、リアライズと関わっていく中でそれを応援してる施設の職員はいますか？

永田： いてないですね。ほんまに出るん？
みたいな人が多かった。

山下： ちょっとでも応援してくれる人がいるのといないのとでは違いますよね。

山本： そうですね。応援してくれる人が、もう少しおったら良かったなと思いましたね。その人の生活を尊重する職員が少しでもおったら良かったのになと。

山下： 永田さんの姿をみて、地域で生活出来るんやなと知ってるのと知らないのとでは考え方が違ってきますよね。

山本： 永田さんが働いてたケーキ屋さんに改めて行ったりすると、自立生活している永田さんのオーラが違うな。と知ってもらったり、永田さんを見て知ってもらえたら、変わったりするのかなと思いました。ちょっとでもそういう人がおったらいいですね。

山下： 今日は長い時間ありがとうございました。永田さんの施設での様子や一人暮らしをするまでの気持ちなど、たくさんお話を聞かせていただきました。これからも一緒にいろんな人に障害者の生活を伝えていく活動ができたらいなと思いました。

永田・山本： ありがとうございました。

じりっせいかつえんじょい ながた
自立生活enjoy！永田さん



～～～Seven メッセージ～～～

なまえ なかい さやか しやしんみぎ
名前 中井 紗耶香 (写真右)



しよぞく しやかいふくしほうじん きょうかい
所属 社会福祉法人あいえる協会
ほんぶ
本部&ピア・エンジン

いま しごと はじ ねんめ うちさんきゅう いっきゅう かい
今の仕事を始めて 20年目 (内産休・育休2回)

1、なぜ、今の活動をしようと思ったのか？

話せば、長くなるのですが、元々、犬が好きで、介助犬の訓練士になりたいという夢があり、福祉系の大学に進学しました。大学2回生の時に、アルバイトでちゅうぶさんのヘルパー募集を見て友達とやってみよう！と飛び込んだのがきっかけです。重度障害者の方の介助に入らせてもらいました。その方は、いろんなところに外出され、買い物と一緒に服を選んだり、当時は友達という感覚でヘルパーに入っていたと思います。結婚されて、結婚式にも行かせてもらったり、引っ越しを手伝ったりもした思い出があります。重度障害者の方が地域で当たり前のように生活していることを知ることができ、この業界を知ることができました。大学卒業して一度は夢に向かって進みましたが、色々あって、24歳の時にあいえる協会に入職しました。

2、活動をして気づいたこと (今までの自分と変わってきたこと)

20年の間では、色々なことがありました。あいえる協会に入って結婚して、子供が2人います。ライフスタイルも大きく変化しています。あいえる協会でも、色々な経験をさせてもらっています。最初は、ヘルパーに入りながら、グループホームほんわか、(当時は重度身体障害者グループホームという制度でした) 自立生活センターまいど、グループホームあいえる、グループホームほんわか、ピア・エンジンと異動してきました。(産休・育休で戻るときに部署異動という感じでした！) 気づいたら、本部活動統括(人材育成・採用担当・通信担当など)としての立ち位置にもなっている感じです。

今までの自分と変わったところといえば、今の立場に立って、自分の意見がすべて正しいと思っていた若いころとは違い、相手の意見をまずは聞いて、発言するタイミングや言葉などを選んでいくことが多くなったかなと思います。

3、続けられている理由は？

この仕事を辞めたらこんなことをしてみたい！など考えたことはありますが、辞めたいと本気で考えたことはありません。子育てしながら、仕事をする大変さはあるので、そこでの葛藤はありますが・・・。

あいえる協会での施設入所者への取り組みや、実際にたくさんの方の地域移行支援に携わることができ、その方が、地域でいろんなことがありながらも、経験を取り戻して、その人らしく暮らしている姿や、「施設から出てきてよかった」という言葉を聞けたとき、本当にこの仕事をしてよかったと思える瞬間です。まだまだ長期施設入所している方がいるのと、障害者の差別や偏見が昔も今も変わっていない、いや、ますますひどくなっていると感じる今日この頃なので、もっと障害者と協働して、障害者のことを知ってもらえる活動をしていきたいと思っていますので、続けられているのかなと思います。障害者事ではなく、自分事としてこの社会の在り方を変えていけたらいいなと思います。



みんなで紙芝居の賞を取った時の
お祝いをしに長居公園の桜 コーヒーに
バリアフリー調査

4、今携わっている活動（仕事）の難しさと面白さ（醍醐味）

今、ピア・エンジンの活動（ピア・エンジンは当事者スタッフの活動の場でもあり、ライフ・ネットワーク生活介護事業所の分所になります！）の中で、障害者問題を題材にした紙芝居を当事者スタッフと利用者、職員とで一緒に一から考えて作成しています。今年の活動の中では、小学校、中学校、大学、住吉区のイベント、住吉バス交流などでその紙芝居を披露してきました。そして、大阪府障がい者芸術・文化コンテストに応募して、パフォーマンス部門で準グランプリ、また神奈川県で行われた、手作り紙芝居コンクールに応募（日本全国、海外より132作品が応募）し、なんと大賞（1位）に選ばれてしまいました。みんなで作った紙芝居を、6名の障害者と職員4～5名がそれぞれの配役や役割をもって一つの紙芝居を作り上げています。太鼓や銅鑼、拍子木ありの本格的な紙芝居です！それぞれのエンパワメントの視点を持ち、役割を決めたり、披露させていただくところのやり取りなど、障害者のことを知ってもらう活動（障害者運動）に携わっていくことが今は、とても面白く、楽しいです。その活動をやっていく中で、当事者がやりがいを感じているなと気づく事や、何事にも積極的になっているなと感じる瞬間をたくさん見れたので、もっと何かできるのでは？と考えています。そして、もっと活動の幅を広げたいなと思っています。また新しい台本ができたので、新作を来年度は披露していきたいと思っています。

この仕事の難しさという点では、障害者運動の視点や昔の障害者の置かれてきた背景など、私としては、実際に施設に訪問したり、地域移行支援に携わり、当事者の方と一緒に経験をしてきたからこそ、今の仕事のやりがいなどに繋げることができています。しかし、それらを経験していない、事業から入ってきた職員にそれらを伝えることの難しさに直面しています。もう一つ、法人全体の活動としての「相模原事件を風化させないためのアピール活動」略して「アピ活」をやっているのですが、やる目的や意味など、当事者の問題としては捉えられるのですが、自分（職員側）の問題として社会のありようをとらえる運動の視点を持つことが難しくなってきました。運動と事業とのバランスが難しいと感じています。それを解消していくために、当事者スタッフの思いを動画に残すなど、研修のツールとしてできるように考えているところです。

5、活動していく中で大切にしていること

当事者主体の活動づくりや、ピアの力やエンパワメントの視点を忘れないようにしています。当事者スタッフと協働していく中で、私たち健常者が同じアプローチをした時に、やはり当事者同士の話の中だからこそ本音が出てきたり、真のニーズにつながるという経験がたくさんありました。当事者スタッフに任すのではなく、役割を分担して、当事者と協働しながらチームとしてアプローチしていくことを大切にしています。



おおさかふしゅう しゃげいじゆつ ぶんか
大阪府障がい者芸術・文化コンテストで
じゆん と とき
準 グランプリを取った時

6、今後、取り組んでみたいこと

紙芝居の活動をもっといろんなところに広めていき、就労（講演料や出演料などをもらえる）活動に繋がっていきたいと思います。（賞も取ったしちょっと自信がついた！）後は、入所施設へのILP企画や外出企画を再開、長期施設入所者の地域移行支援に繋げられるような仕掛けや仕組みをつくっていき、誰もが地域でその人らしく暮らせる社会を目指していきたいです。

7、あなたの座右の銘など

座右の銘ということわけではありませんが、「相手の立場に立って考える！」は常に意識しています。あとは、笑顔と元気であいさつも大事なことだと思っています！しんどい時や悩んだときは、誰かに相談することは意識しています！職場でも家族でもすぐに相談できる人がすぐそばにいることも自分の強みだと思っています。

じりっせいかつむちゅう 自立生活夢宙センター スロープ寄贈活動！！

じりっせいかつむちゅう 自立生活夢宙センターがお店にスロープを寄贈する活動をしていくということで取材させていただきました。

●スロープ寄贈活動を始めるきっかけを教えてください。

○去年10月に京都府にあるジャミンというチャリティー専門ファッションブランドから急に話がありました。そこで、チャリティーTシャツを販売することになりました。チャリティー始めたのはいいけど、集まったお金をどう使おうかと思ってて、大阪府泉大津市で活動している自立生活センター・リアライズがやっている泉大津トライ（募金活動をして、お店に簡易スロープを寄贈）の夢宙センター版をやりたいなと思っていました。チャリティーのお金が250,000円ぐらい集まりました。

●実際にスロープを寄贈する予定はありますか？

記念すべき、

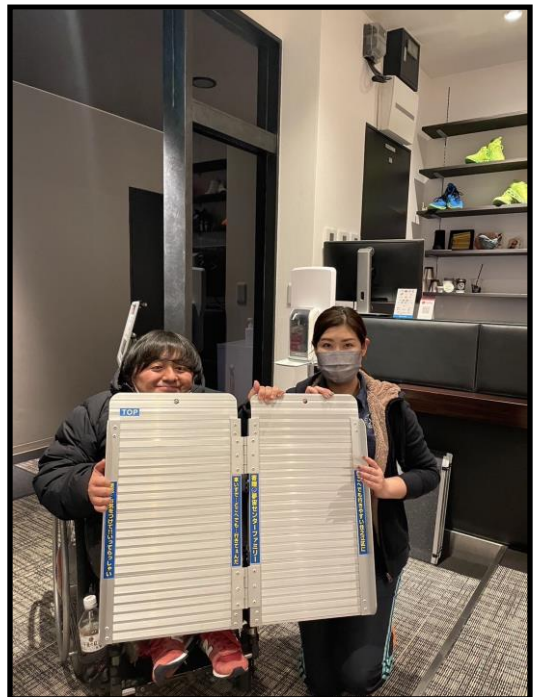
チャリティー スロープ設置の第一弾は…

夢宙センターから10分ぐらいにあるホテルに寄贈する予定です。夢宙センターは地域交流が盛んなんですね。仲が良かったです。そのホテルがちょうど去年の5月ぐらいかな3階を改装してトレーニングルームを作ったんです。夢宙のみんなが見学に行ったんですけど、なかなか良くて。普通はジムに行ったら本人の登録だけだったらダメなんです。ヘルパーの登録も必要なんです。「ヘルパーは毎回変わるんですけどどうしたらいいですか？って聞いたら「ヘルパーさんも登録してほしい。」言われるんですよ。そんな無理じゃないですか？無理やからどうしようと思ったこともありました、こういうケースがけっこうあって、別のケースでABCクッキング（料理教室）に行こうと夢宙センターの障害者が思った時に、やっぱり「ヘルパーさんの登録が必要なんですよ。」と言われて、障害者の居場所となる習い事とかできない弊害になっているなと思いながら、交渉したんですが無理でした。

●ホテルの反応は、どうですか？

○寄贈予定のホテルは「ヘルパーさんももちろん代わりますし、サポートだけやから、当事者の方だけでいいですよ。」と言ってくれました。

ホテルの考え方が素晴らしいんですけど、段差（15cm）があるんですね。それでは行けないですね。だから、スロープを寄贈しようと思ってホテル側も喜んでくれています。



ジムへ通い詰める夢 宙センターのスタッフ（電動車いすユーザー）（写真）
このスロープを設置してスムーズになったことにより、筋トレ前に誰かを呼ばないといけ
ないということがなくなりました。

これからもこのホテルは、
車いすユーザーはじめ誰もが安心して利用しやすいホテルを目指すため、夢 宙センター
と一緒に環境づくりをすることを宣言してくれています！

ナビゲーション至上初！学習塾への取材！！

個別指導学院Hero's 平野喜連瓜破校

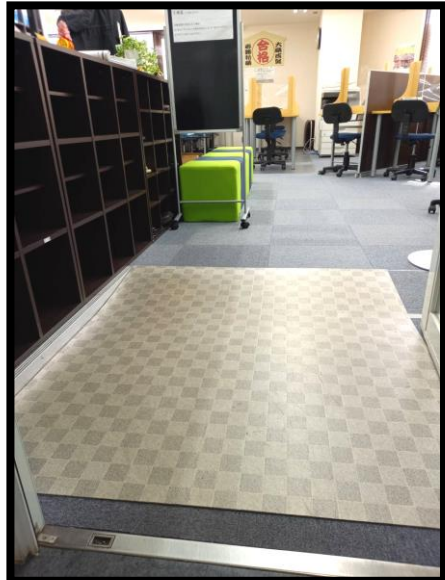
住所：大阪府大阪市平野区喜連 2丁目5-63

電話：06 - 6701 - 8699

最寄り駅：大阪メトロ谷町線喜連瓜破駅

バリアフリーに注目して取材させていただきました。

シンコービルの3階に学習塾はあり、4階には車いすトイレも設置されていました。



入り口は自動扉になっていて、入るとスロープがあり、その奥には9人乗りのエレベーターが1基設置されていました。

【岩本校長のお話】

10年前に開校。フランチャイズで喜連瓜破校以外にも開校しているが車いす対応の教室は喜連瓜破校のみになります。小学生から大学生まで幅広い学生が通っている。入り口はスロープになっていて、車いすのタイヤを拭いてもらえれば、そのまま入ることが出来るようになっていきます。椅子は移動式。これまで障害者の方が通った経験はないが（体験で1回来られたが）対応はしていきたいです。知的障害の方などには、何度も復習をやりながらゆっくり進めていこうと思います。不登校の学生もいるので、今はzoomを活用しながら教えています。お気軽にご相談ください。

東住吉区地域自立支援協議会全体会報告

1月20日（金）東住吉区地域自立支援協議会全体会を東住吉区民ホールで行いました。

まず初めに、地域自立支援協議会の活動報告があり、後半は「学校現場で気づくヤングケアラー～理解と支援に向けて～」をテーマに、桃山学院大学社会学部ソーシャルデザイン学科の金澤ますみ様に講演していただきました。

現在ヤングケアラーとは、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなど行う18歳未満の子どものこと（日本ケアラー連盟ヤングケアラープロジェクト）と定義しているそうです。お手伝いとの違いは、その行為がなくとも生活が回る、ケアをしないと暮らしが回らなくなり家族が困ってしまう状況になるかの違いです。例えば保護者に何らかの障害があるので、子どもが買い物に行かないと食べるものがなかったり、洗濯物も溜まってしまうなどです。近年ヤングケアラーと言われる子どもたちが増加傾向にあります。ヤングケアラーが抱える生活課題は、ケアを必要としている人への制度の課題（＝社会課題）が根底にあると金澤さんはお話しされました。必要としている制度の窓口や担当者がいろんなところに振り分けられているため、相談に行っても本当に必要な支援に繋がるまで時間がかかってしまうことも大きな課題です。

ヤングケアラーにとって最も大きな課題は学校生活に影響を及ぼすということです。令和4年度に府立高校対象に行った調査結果によると、世話をしている家族がいる生徒の方が欠席や遅刻が多かったり、宿題等の提出物が滞りがちになるなど、学校生活に支障が生じていることが分かったそうです。またそんなヤングケアラーたちが望むことは、進路や就職についての相談にのってほしい、学習面でのサポートが欲しいという回答が約2割、福祉サービスの支援が欲しいという回答は約7割あったそうです。そして悩みがあっても相談した経験がない生徒は5割を上回る結果となりました。

金澤さんは、このような子どもたちには教員たちが「学校でできることについて考えたいと思っていること」「遠慮なく申し出てほしいこと」「相談する事は恥ずかしいことではないということ」を伝えていくことが大切とお話しされました。また支援などに繋げるためにはスクールソーシャルワーカーの存在も大切であることも教えてくださいました。

講演を聞いて思ったのは、子どもたちが孤独にならないためにも、大人たちが目を配り、配慮ができる社会になってほしいし、困っていることに対してすぐに助けてほしいと言える社会にしていける必要があると思いました。金澤さんご講演頂きありがとうございました。

【地域自立支援協議会とは】

障害者が住みやすい地域作りを進めていこうという共通認識を持ち、様々な立場の人が集まり活動しています。東住吉区地域自立支援協議会は、相談支援部会、子ども部会、日中活動連絡会、当事者部会、居住系連絡会の5つの部会を行っています。（文責：ナビ東）

へんしゅうこうき 編集後記

みなさん、こんにちは。ロシアのウクライナ侵攻から1年が過ぎ、最近ではトルコで大きな地震が起きました。ついさっきまで「平和な日常生活が当たり前。」それが一瞬にして当たり前では、なくなる日々が変わる。当たり前が、なんとも幸せで奇跡的なことか。変えたい当たり前もある。よく言われるのは、入所施設では、お風呂に入れる日が週2日これが当たり前。障害者は電車に乗ることを待たされるのが当たり前。そんなことを当たり前にしてはいけない。だから、当たり前を変えていきたい。【やました】

●各団体で企画しているものがあれば、当センターが発行している機関誌ナビゲーションに掲載して
 ませんか？ナビゲーションは 3月、7月、11月に発行しています。掲載する際、各企画のお問い合わせ
 は当センターではなく、直接、各団体にお願いたします。当センターにお問い合わせいたしまし
 ても、お答えいたしかねますので、ご了承ください。

●みなさんからの^{いけん}ご意見、^{かんそう}ご感想をお待ちしております。記事に対する^{きじ}ご感想、^{たい}日ごろ感じておられる^{かんそう}疑問、こんな^ひ情^{かん}報^{かん}を知ってるよなど、なんでも結構ですので下記の連絡先までお寄せいただければ幸いです。^{ぎもん}また、突然、取材にお伺い^{じょうほう}させていただき、ご迷惑^{けっこう}をおかけすることがあるかも知れませんが、^かその際には、ご協力^きのほどよろしくお願いいたします。^{れんらくさき}

[illegible]

自立生活センター・ナビとは…

わたし かんが じりつ
☆ 私たちの考える「自立」は…

働いてお金を稼ぐ事や身の回りのことを全部自分で出来るようになる事、それだけが「自立」でしょうか？もちろんそれも大切なことですが、できない事は人の手を借りたり、気持ちを上手く伝えられないときには仲間にサポートしてもらったりしながら、一人一人の生活を創っていくことも「自立」であり、色々な方法でお手伝いしていきたいと考えています。

☆地域で障害者の自立を実現していくための「道案内（ナビゲーター）」として、例えば「介護してくれの人を探しているんだけど？」「家の中をもっと使いやすくしたいけどどうすればいいの？」そして「自立したいけど自分には無理かな？」自立生活センター・ナビでは、こうした障害者や家族の悩みや相談について、障害を持つピアカウンセラーが同じ障害者の立場でお話を伺い、制度の説明や申請のお手伝い、住宅改造などのアドバイスをさせていただきます。その他、電動車いすで街へ出かけたり仲間と一緒に料理を作ったり地域で生活していく上で必要なことを、楽しみながら経験できる「自立生活プログラム」や、自立生活に関わる各分野の方々をお招きしてお話を伺う「自立生活セミナー」の開催、情報誌「ナビゲーション」の発行も行っています。

[illegible]

はっこう
発行

じりつせいかつ
自立生活センター・ナビ

でんわ 06 (6760) 2671

住所 〒546-0042 大阪市東住吉区西今川2-3-8

ファックス 06 (6760)2672